

## 4. 日本の商品別貿易指数（2005年版）

### 1. 調査の目的

日本経済は長期の低迷期から脱しつつあり、04年には実質成長率2.7%と回復基調が続く中、近い将来のデフレ脱却を展望できる状況になってきている。また、対アジア輸出が堅調に拡大し、2003、4年の貿易黒字はそれぞれ11兆円を超えている。しかし、アメリカの貿易収支が空前の赤字を更新し、アメリカの対中赤字が急拡大する中、日本の対米貿易黒字はむしろ頭打ちになるなど、アジア太平洋地域の貿易構造には大きな変化が生じつつある。

上記のような日本の貿易構造変化の実体は、金額ベースだけでは正確に把握できず、数量と価格の要因に分けて分析することが重要である。これによって地域ごとの輸出入変化がより明確となると同時に、国別の貿易構造変化などの分析が可能となる。

### 2. 調査結果の概要

こうした認識のもと、本報告書では、日本の品目別、地域別の輸出入の数量指数、価格指数を作成し、これらの指数を用いて日本の貿易構造を分析した。

本報告書では、付表1として部品類も含めた機械類を中心に、機械種別に輸出入数量指数、金額指数、価格指数を掲載した。また、付表2、3にはそれぞれ商品特殊分類別、製品と主要商品分類基準別の貿易指数を掲載した。いずれも、対世界、米国、EU15、NIES、ASEAN4、中国、東アジアの7地域別に指数を算出している。さらに、付表4には、アジア主要8ヶ国（韓国・台湾・香港・シンガポール・タイ・マレーシア・フィリピン・インドネシア）別の主要商品の貿易指数も掲載した。また暦年データは1997年～2004年を円ベースとドルベースで、四半期データは2001年～2004年を円ベースでそれぞれ示してある。

\*Microsoft Excel 形式の電子媒体の利用も可能である。